



『スパークス 日本株長期投資のすすめ』

スパークスの株式投資、株式市場などに対する見方を紹介するコラムです。

第4号(2008年3月28日)

「『20銘柄程度に厳選投資』」

今回は、本日新規に設定させていただきました、「スパークス・新・国際優良日本株ファンド『愛称：厳選投資』」について記させていただきます。本ファンドは、ベンチマークを設けず、20銘柄程度に厳選投資を行なうファンドです。

通常、株式運用を行う場合、数多くの銘柄に分散投資を行うことが望ましいとされています。これは保有する銘柄が多ければ多いほど分散投資の効果により、リスクが低下するからです。つまり値動きの異なる複数の銘柄に分散投資を行なうことでリターンは平均値になりますが、リスクは平均値以下に低下することができるということです。

確かに分散投資はリスクを低下させる重要な手段ではありますが、いくつかの弱点があります。

一つは、銘柄数が多くなると、よく知らない銘柄を買ってしまうリスクがあるということです。世の中の多くの企業を徹底的に調べぬき、理解するという何を何百社も同時に行なうことは困難と考えられます。つまり分散投資を行なうためによく理解していない銘柄がポートフォリオに紛れ込むリスクがあるのです。

また、分散投資によって価格変動のリスクは一定の値以下には減らせないということです。分散投資で銘柄数をどんどん増やしていても、リスクはゼロにはなりません。これは個別銘柄のリスクとは別に株式市場全体のリスクが存在するためです。

世界でも有数のお金持ちと言われているアメリカの投資家、ウォーレン・バフェット氏は、自分が分からないものには投資をしないという考えを貫き、ITバブルの際にもIT関連銘柄には一切投資をせず、自分が理解した銘柄だけに投資をすることで巨万の富を築きました。

「厳選投資」では徹底的に調べぬき、深く理解を得た銘柄だけに投資を行ないます。厳選投資は日本株全体の上昇によってパフォーマンスの向上を図るのではなく、あくまで、新・国際優良企業へと大きな飛躍を遂げると考えられる個々の企業の株価上昇を捉えることでパフォーマンスの向上を図ります。日本の株式市場全体の動きにはとらわれない運用を目指すといった意味からもベンチマークとしてTOPIX（東証株価指数）や日経平均等とファンドを比較することも行ないません。

現在、日本企業の中から新・国際優良企業として大きく飛躍できる魅力的な企業は無数に存在するわけではなく、限られた数の企業しかないスパークスでは考えております。

「厳選投資」はこうした企業の中から20銘柄程度に投資を行ないます。

(注) 本コラムは、マネックス証券Web-Site「マネックスラウンジ」の「マネックスメール」に掲載されている「スパークス・アセット・マネジメントの『SPARX Way』」をもとにスパークスが作成したものであります。また、上記は株式投資に関して理解を深めていただくためのものであり、特定の有価証券を推奨しているものではありません。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。